

ミャンマー連邦
伝統医療プロジェクト
運営指導調査報告書

平成20年3月
(2008年)

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

人間
JR
08-099

ミャンマー連邦
伝統医療プロジェクト
運営指導調査報告書

平成20年3月
(2008年)

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

序 文

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、ミャンマー連邦の保健医療サービスの向上の一端を担う「伝統医療プロジェクト」を2006年11月から2009年1月までの2年3ヶ月間の計画で実施しています。これは、安価で副作用が少なく、貧困層を中心に多くの国民が日常的に利用している伝統医療サービスの向上することを目標とするプロジェクトであり、ミャンマー連邦の国民に届く真に人道的な支援として実施しています。

今般、協力開始から1年3ヶ月が経過したところで、同プロジェクトの運営指導調査を実施するために、2008年2月に調査団を派遣し、ミャンマー連邦関係機関との間でプロジェクトの進捗の確認と今後の方向性に係る協議を行いました。本報告書は、その調査結果を取りまとめたものです。

ここに、本評価調査にご協力を賜りました関係各位の皆様に対しまして深甚なる謝意を表すと共に、引き続き本プロジェクトの実施・運営にご支援をお願いする次第です。

平成20年3月

独立行政法人国際協力機構
人間開発部長 西脇 英隆

ミャンマー連邦地図





保健省伝統医療局との協議



ネピドー市内薬草園視察



薬草園内研究所視察

目 次

序 文
地 図
写 真

第1章 運営指導調査団派遣概要.....	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的.....	1
1-2 調査団の構成.....	1
1-3 調査日程.....	2
1-4 主要面談者.....	3
1-5 調査内容.....	3
第2章 プロジェクトの実績と現状.....	4
2-1 投入実績.....	4
2-2 活動実績（PO1に基づく）.....	5
2-3 プロジェクトの実施体制.....	7
2-4 調査および協議結果.....	7
第3章 プロジェクトの実施方針.....	9
3-1 調査結果の総括と今後の基本方針.....	9
3-2 指標の導入.....	10
3-3 新POに基づくプロジェクト基本計画.....	10
付属資料	
運営指導調査団議事録（M/M）.....	13

第1章 運営指導調査団派遣概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ミャンマー連邦（以下、「ミャンマー」と記す）においては、長い歴史を持ち、安価で副作用の少ない伝統医療に信頼をおき、貧困層を中心に多くの国民が日常的に利用しているが、伝統薬剤の品質や伝統医療師の質の問題が大きな課題として存在している。このような状況の下、ミャンマー政府は、第三次国家保健計画（2001～2006）で新たに伝統医療を12の重点プログラムの一つに加えると共に、そのプログラムの中で伝統医療師の能力向上、伝統薬剤の品質管理等を強力に押し進めている。

本プロジェクトは、伝統医療師の技術の向上と保健医療サービスの向上をめざし、2006年11月に開始された。プロジェクト開始より1年3ヶ月が経過しており、本協力は小規模案件であり、中間評価は必須でないものの、これまでの活動進捗状況を確認し、今後のプロジェクトの方向性をミャンマー側（保健省伝統医療局、カウンターパート）、JICA ミャンマー事務所と協議し、必要に応じて残り協力期間の活動計画（Plan of Operation：PO）の修正を行うことを目的に、今般、運営指導調査団を派遣する運びとなった。

1-2 調査団の構成

氏名	担当分野	期間	所属先
竹本 啓一	総括／団長	2008/2/16～2/23	JICA 人間開発部 保健人材育成チーム チーム長
門田 重利	伝統医療	2008/2/5～2/10	富山大学和漢医薬学総合研究所
高野 晋太郎	協力計画	2008/2/5～2/23	JICA 人間開発部 保健人材育成チーム

注）竹本団長と高野団員は、「基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団」の団長・団員をも兼ねる。

1-3 調査日程

	日付	曜日	竹本団長	高野団員	門田団員	宿泊先
1	2月5日	火		移動（日本→ミャンマー）		ヤンゴン
2	2月6日	水		移動（ヤンゴン→ネピドー） 保健省伝統医療局との協議		ネピドー
3	2月7日	木		保健省伝統医療局との協議		ネピドー
4	2月8日	金		保健省伝統医療局との協議、 移動（ネピドー→ヤンゴン） JICA ミャンマー事務所報告		ヤンゴン
5	2月9日	土		資料整理	移動（ミャンマー→日本）	ヤンゴン
6	2月10日	日		資料整理	日本到着	ヤンゴン
7	2月11日	月		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ヤンゴン
8	2月12日	火		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ヤンゴン
9	2月13日	水		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ヤンゴン
10	2月14日	木		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ヤンゴン
11	2月15日	金		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ヤンゴン
12	2月16日	土	移動（日本→ミャンマー）	基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ヤンゴン
13	2月17日	日		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ヤンゴン
14	2月18日	月		移動（ヤンゴン→ネピドー） 保健省伝統医療局との協議 基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ネピドー
15	2月19日	火		保健省伝統医療局との協議 基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ネピドー
16	2月20日	水		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務		ネピドー
17	2月21日	木		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務 移動（ネピドー→ヤンゴン）		ヤンゴン
18	2月22日	金		基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団業務 ヤンゴン伝統医療病院訪問 移動（ミャンマー→日本）		—
19	2月23日	土		日本到着		—

注）本調査団は、「基礎保健スタッフ強化プロジェクト事前調査団」と併せて派遣された。

1-4 主要面談者

<ミャンマー側>

ミャンマー保健省伝統医療局関係者

Dr. Tin Nyunt	保健省伝統医療局 局長
U Aung Myat Kyaw	保健省伝統医療局 次長
U Win Myint	保健省伝統医療局研究開発課 課長
Dr. Theim Kyaw	ヤンゴン伝統医療病院 院長（カウンターパート）

<日本側>

JICA ミャンマー事務所

佐藤 公平	次長
馬部 典佳	企画調査員
Daw Pa Pa Khin	ナショナルスタッフ

1-5 調査内容

(1) プロジェクトの進捗確認

プロジェクト開始から1年3ヶ月が過ぎ、残り1年間の活動で目標を達成することが必要となるが、今後は長期専門家を配置せず、カウンターパート（Counterpart：C/P）側を中心としたプロジェクト運営を行うこととしており、短期専門家派遣を通じ各活動の進捗の確認と、必要に応じて活動の実施促進のための助言を行う。今後に残された活動は以下のものに集約されることから、それぞれの進捗を確認する。

- 1) 伝統医療師向けハンドブック作成
- 2) 伝統医療の有効性調査
- 3) 伝統医療師向け研修

(2) プロジェクト実施体制の確認

C/P側中心でプロジェクトを運営するために必要な連絡体制等について協議し、確認する。

第2章 プロジェクトの実績と現状

本調査の主要目的は、これまでのプロジェクトの進捗や外部条件等を確認し、必要に応じてプロジェクト計画を改訂することであった。現時点でのプロジェクトの実績と現状は、以下のとおりである。

2-1 投入実績

2-1-1 日本側投入

(1) 専門家

プロジェクト開始から2008年1月末現在までには、長期専門家1名と短期専門家4名が派遣された。指導分野や派遣期間は以下のとおりである。

<長期専門家>

専門家氏名	指導分野	派遣期間	派遣前の所属先
横森 健治	研修計画／業務調整	2006/12/20～ 2007/12/28	(株)タックインターナショナル

<短期専門家>

専門家氏名	指導分野	派遣期間	派遣前の所属先
門田 重利	調査手法指導	2006/11/26～ 12/26	富山大学 和漢医薬学総合研究所
済木 育夫	疾病構造分析	2007/7/14～ 7/20	富山大学 和漢医薬学総合研究所
門脇 真	需要分析	2007/7/14～ 7/27	富山大学 和漢医薬学総合研究所
手塚 康弘	処方分析	2007/7/14～ 7/27	富山大学 和漢医薬学総合研究所

(2) 供与資機材

2006年度から2007年度分までの日本側の供与機材の実績は、合計8,908FECである。詳細供与機材リストは以下のとおり。

機材項目	購入単価	購入数
Obstetric Table with Mattress	400FEC	1
Canon iR-2016	3,060 FEC	1
Rotary Evaporator with water bath	2,900 FEC	1
Toshiba Satellite M200-P431	1,268 FEC	2
Denyo Generator DCA 25 ESI	1,280 FEC	1
14 no. of Books	—	14

FEC (Foreign Exchange Certificate : 外国為替証明書)

(3) 在外事業強化費

2007年2月末時点で、日本側の在外事業強化費として合計4,429FECがプロジェクトの活動のために投入された。

	2006年度	2007年度	合計
在外事業強化費	2,126FEC	2,303FEC	4,429FEC

2-1-2 ミャンマー側の投入

(1) C/Pの配置

討議議事録(Record of Discussions : R/D)では、ミャンマー側C/Pの配置について以下のとおり規定されている。このうちヤンゴン伝統医療病院長が主要なC/Pとしてプロジェクトの日々の運営に携わっている。その他C/Pは首都ネピドーで勤務しているため、ヤンゴンにオフィスを置く本プロジェクトへの参画は物理的な制限があるが、Project Directorである保健省伝統医療局長は本プロジェクトに高い関心を持ち、重要事項の方針決定等、プロジェクト運営にできる限り関与している。

- 1) Director General, Department of Traditional Medicine
- 2) Deputy Director General, Department of Traditional Medicine
- 3) Director, Research and Development, Department of Traditional Medicine
- 4) Deputy Director (Herbal Medicine), Research and Development, Department of Traditional Medicine
- 5) Researcher (Biochemistry), Research and Development, Department of Traditional Medicine
- 6) Researcher (Pharmacology), Research and Development, Department of Traditional Medicine
- 7) Medical Superintendent, Traditional Medicine Hospital, Yangon

(2) 施設

ヤンゴン伝統医療病院内にプロジェクトオフィスが提供されている。

2-2 活動実績(PO1に基づく)

本プロジェクトは伝統医療師の技能向上をめざし、伝統医療の現状を的確に把握するための調査・分析を前半部分で実施し、それらの結果を踏まえて、後半部分で伝統医療師の技能向上に取り組むこととしている。

下記のように、前半部分においては主に調査と分析が実施されており、それぞれ順調に進捗しているといえる。

活動	実績
成果1：現状調査により伝統医療従事者の現状が把握され、改善のための提言がなされる。	
1-1 調査対象地域の状況に応じた調査方針を決定する。	ミャンマーにおいて多く見られる疾病の傾向、薬品の需要および処方に関する調査に先立ち、調査対象とすべき地域の選定のため、門田専門家による予備調査が実施された。 その結果、ヤンゴンおよびマンダレーを中心に周辺地域を広く調査対象とすることが決定された。マンダレーには伝統医療大学が置かれ、伝統医療の診療所も多く、ミャンマーにおける伝

	<p>統医療の中心的地域である。</p> <p>また、同専門家の活動の中で一部の調査データが収集されると共に、C/P側への調査技術の移転が行われた。</p>
1-2 対象地域において多く見られる疾病・処方・薬草使用状況に関する情報収集を行う。	<p>門田専門家の活動を引き継いだ横森専門家により、ミャンマー側で選定された調査員（伝統医療師）への調査技術移転が行われ、ヤンゴンおよびマンダレーを中心に、調査が実施された。その結果、340のサンプルが収集された。</p>
1-3 収集した情報・データを分析し、伝統医療従事者への研修に係るニーズアセスメントを行う。	<p>1-2で収集されたデータを基に、富山大学の短期専門家の協力により住民の疾病傾向や医薬品の需要、その処方傾向の分析を試みたところ、ミャンマーの伝統医療は、さまざまな疾患に対処しているものの、特に慢性疾患（脳卒中、糖尿病、高血圧）が症例として多く扱われている傾向が顕著に表れた。疾患や症状を表す語句や、薬草の名称等が西洋医療と一致するものと、一致しないもののばらつきがあるため、傾向を必ずしも正しく見出せていない可能性がある。その中でも、疾病傾向として明らかになったことを基に、特に期待の高い疾患と、糖尿病・高血圧を定め、それに対する具体的な薬品の処方等の状況に関し、さらに正確なデータを得ることが必要と判断し、2008年1月より追加の調査を実施することとした。</p> <p>伝統医療師対象の研修に関しては、現時点では具体的なニーズ把握は行われていないが、ヤンゴンおよびマンダレーにおいて実施されたワークショップの参加者より、高い期待が存在することが把握されている。</p>
1-4 伝統医療従事者向けのハンドブックを作成する。	<p>ハンドブックの掲載項目については、2007年11月の合同調整委員会（Joint Coordinating Committee : JCC）において別添（M/M）のとおり合意され、執筆担当者についても決定されている。</p> <p>運営指導調査時には、伝統医療局側からはハンドブックの表紙案とレイアウト案についてのみ提示された。ミャンマー側執筆者および日本側執筆者それぞれの責任範囲で執筆が進められているが、ミャンマー側執筆者がマンダレー在住であることから目視による執筆状況の確認はできていない。</p>
1-5 伝統医療従事者の卒前卒後教育・現任研修改善に係る提言を報告書にまとめる。	<p>実施されていない。</p>
1-6 伝統医療従事者を対象としてセミナーを開催し、提言を共有する。	<p>実施されていない。</p>
<p>成果2：伝統医療従事者の薬草の基礎知識が改善される。</p>	
2-1 伝統医療従事者を対象に、日常使用する薬草の基本的知識に係る研修を実施する。	<p>実施されていない。</p>

2-3 プロジェクトの実施体制

プロジェクトオフィスをヤンゴン伝統医療病院内に置き、C/PであるDr. Theim Kyawと横森専門家（研修計画／業務調整）を中心としてプロジェクトは運営されてきた。プロジェクト活動等の決定権を有する伝統医療局は首都ネピドーに置かれていることから、当初より連絡調整に懸念があったものの、現在までに実施体制に大きな問題は見られていない。

また、主要な活動がミャンマー側を実施主体とするものが多いため、2007年12月からは長期専門家を配置せず短期専門家を随時派遣することとし、C/P主体でのプロジェクト運営体制としているが、必要に応じてJICAミャンマー事務所から支援しつつ、おおむね順調に進められている。

2-4 調査および協議結果

2-4-1 伝統医療師向けハンドブック執筆

ハンドブックの章立てが2007年11月のJCCにおいて双方合意されており、それに従って執筆が進められている。本調査時は、表紙とレイアウトについては提示があったものの、主な執筆者がマンダレー在住であり、本文の執筆状況については目視による確認はできなかった。今後は、3月に派遣予定の短期専門家により執筆状況を確認すると共に、必要に応じて助言を行うこととする。

2-4-2 伝統医療の有効性に関する追加調査進捗状況

2008年2月末を期限に、高血圧および糖尿病に対する伝統医療の有効性を計るための調査を実施している。本運営指導調査中にも調査が進められ、調査団帰国前にすべての調査用紙を回収した（本調査は対象者の了解を得て実施しており、回答用紙は調査結果データ取りまとめ後、破棄予定）。

本調査は、ハンドブックの一項目として、ミャンマーの伝統医療の有効性を示す情報収集のため実施されている。高血圧・高血糖の症状を持つ患者に対し、ミャンマーの伝統医療により治療を行う中で、具体的にどのような診断および治療を行い、どのような結果が出ているかを各地の伝統医療師を通して調査した。現時点ではその分析結果は出されていないが、ミャンマーの伝統医療が有効であると立証されることが期待される。有効性が確認されなかった場合には、本プロジェクトからの提言として、ミャンマー伝統医療に改善の方策を提示することが想定されている。

2-4-3 伝統医療師向け研修

2008年度第2四半期に実施が計画されている伝統医療師を対象とした研修についての議論を行った。プロジェクト開始段階においては、20名の伝統医療師に対し2日間の研修を5回実施する予定となっていたが、調査団より予算および講師派遣上の都合から、これまでに本プロジェクトのセミナーやワークショップに参加経験のある伝統医療師のみを対象とした1回の研修をすることを提案した。それに対し伝統医療局長からは、規模の縮小は行わず、当初計画どおり複数回研修を実施したいとの回答がなされた。更には日本人専門家がすべての指導を行う必要はなく、ミャンマー側独自に伝統医療局やマンダレー伝統医療大学から講師として人材を派遣したいとの言及があった。

調査団からは、この先方の積極的な姿勢については評価すると共に、次回派遣予定の専門家とより詳しい研修ニーズの把握と研修計画の策定を行うよう助言した。

また、本研修のコンセプトとして、①ハンドブックを教材として使用すること、②伝統医療師と患者との適切なコミュニケーションを促進すること、の2点が伝統医療局長より提示された。①については、プロジェクトの最重要視しているハンドブックであることから、調査団としても同様に重要性を感じる。②については、今回の協議において言及があったのは大きな進展であると考えられる。これまでプロジェクト側は、ミャンマーの伝統医療に対し改善をもたらしたく、例えばミャンマーの伝統医療に西洋医療のような科学性を導入し、医療としての質を高めていくべきであるという考えがあった。しかし、本プロジェクトでの過去の協議等においては、伝統医療局側から“ミャンマーの伝統医療を変える意図はない”という言及がなされていた。今回出された提案は、伝統医療局自らが改善すべき点として提示したものであり、調査団・プロジェクト側と伝統医療局側の意向が一致したということがいえる。伝統医療師と患者とのコミュニケーションのあり方が改善されることは、伝統医療による保健医療サービスの改善に資する成果となりうると考えられる。

この2つの研修コンセプトに基づき、更なる具体的な研修ニーズの把握と、研修計画の策定が実施されることとなる。

第3章 プロジェクトの実施方針

3-1 調査結果の総括と今後の基本方針

日本人専門家が不在の状況ではあるものの、ミャンマー側により、円滑に活動が進められていることが確認された。局長を中心とした伝統医療局のイニシアチブと、主要C/Pであるヤンゴン伝統医療病院長の貢献によるところが大きい。またその背景には、これまでに派遣された各専門家の積極的な取り組みと、良好な関係作りがあったと思われる。

また、保健省内で伝統医療に対する関心が高まっている一方で、伝統医療局に対する他国・他機関からの支援が少ないことも、本プロジェクトへの伝統医療局側の積極的関与を高めることの一助となっていると思われる。

これらの背景も踏まえ、おおむね順調に進捗している本プロジェクトであるが、本調査後にはプロジェクト後半に入り成果の発現が求められる。成果発現のため今後の活動の中心となるのが、「伝統医療師向けハンドブック」作成と「伝統医療師向け研修」の実施である。特に伝統医療師向けハンドブックに関しては、薬草や治療法の紹介といった個別事項にとどまらず、伝統医療師として必要な知識や技術を広く盛り込むこととしている。これは、伝統医療師の基礎的な知識の習得と、より効果的な新規技能の習得に寄与することが期待できるものである。

一方、伝統医療師向けの研修に関しては、本調査団と伝統医療局側との協議の中で、「ミャンマー伝統医療への科学の導入」が言及されたことは重要視すべきである。これまでのプロジェクト活動を通じ、伝統医療の質を高めることの重要性、そのためには科学性の向上が重要であることが「認識された成果」と考えられる。この認識に基づき、本プロジェクトとしても伝統医療の科学性および質を高めるための研修であるということが再度共有されることとなった。なお、伝統医療への科学の導入というのは、広いコンセプトであるため、本プロジェクトでは特に研修項目として、“患者との適切なコミュニケーションについて”の指導を行うこととした。

なお、今後の活動方針は以下のとおり。

活動	実績
成果1：現状調査により伝統医療従事者の現状が把握され、改善のための提言がなされる。	
1-1 調査対象地域の状況に応じた調査方針を決定する。	完了
1-2 対象地域において多く見られる疾病・処方・薬草使用状況に関する情報収集を行う。	完了
1-3 収集した情報・データを分析し、伝統医療従事者への研修に係るニーズアセスメントを行う。	2008年3月派遣予定の「研修ニーズ分析」短期専門家により、伝統医療局との協議および伝統医療師への聞き取りを行い、研修ニーズを具体化する。
1-4 伝統医療従事者向けのハンドブックを作成する。	伝統医療局および富山大学の短期専門家により、各担当項目の執筆が行われる。 6月末：英語・ミャンマー語双方の原稿確定。印刷開始 10月末：印刷製本完了 11月：伝統医療師向け研修において教材として使用

<p>1-5 伝統医療従事者の卒前卒後教育・現任研修改善に係る提言を報告書にまとめる。</p>	<p>プロジェクトで実施した調査結果および C/P 向け本邦研修で得られた知見を基に、C/P 主体での提言報告書作成を行う。C/P 向け本邦研修は、伝統医療師向け国内研修の前（2008 年 10 月）を想定。</p> <p>これまでの経験から、外部者のみによる提言では十分に受け入れられないと予測されるため、伝統医療師・医師の資格を持つ C/P が、さらに本邦研修により日本における伝統医療（漢方）の知識を習得し、それらの総合的な知識により提言を行うことが望ましいと判断した。提言書を作成するにあたっては、本邦研修実施機関でもある富山大学から支援を得ることとする。</p>
<p>1-6 伝統医療従事者を対象としてセミナーを開催し、提言を共有する。</p>	<p>2008 年 11 月の伝統医療師向け研修に合わせて、伝統医療局および伝統医療師に対して提言を行う。</p>
<p>成果 2：伝統医療従事者の薬草の基礎知識が改善される。</p>	
<p>2-1 伝統医療従事者を対象に、日常使用する薬草の基本的知識に係る研修を実施する。</p>	<p>2008 年 11 月、ハンドブックを教材として用いた研修を実施する。</p>

3-2 指標の導入

本プロジェクトは計画予算額が少額であったことから、Project Design Matrix (PDM) の作成を行わず、PO による進捗管理を実施してきた。そのため、目標・成果を測る指標を設定してこなかったが、終了時評価の実施を想定し、今回の先方との協議において、上位目標、プロジェクト目標、成果それぞれに対する指標を設定することとした。(別添付属資料 Minutes of Meetings (M/M) の ANNEX 4 を参照)

3-3 新 PO に基づくプロジェクト基本計画

2007 年に実施された JCC において、既に PO が一部修正されていることから、伝統医療局との協議の中で活動計画として変更すべき部分は見られなかった。協議の上設定された指標を追記し、さらに一部の文言等の整理を行い、新しいマスタープランについて合意した。

修正されたのは、伝統医療師向け研修に関し、参加者人数、回数、日数の記載を今回削除した点である。今回の協議においては、伝統医療局側の要望と調査団側の提案が合致していない点があるため、次回派遣予定の短期専門家により詳細な研修ニーズを把握し、具体的な計画を作成することとした。なお、予算等の観点から当方提案のプロジェクト計画は、比較的規模は小さいが、伝統医療師の技能向上のためには、質・量共に充実した研修であるべきという点では、メンバー側と同じ認識であり、日本側としては予算確保に努め、可能な限り先方の要望に応えるような計画を検討したい。

付 属 資 料

運営指導調査団議事録 (M/M)

MINUTES OF MEETINGS

my/hm-073

BETWEEN THE JAPANESE PROJECT CONSULTATION TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE MINISTRY OF HEALTH,
UNION OF MYANMAR ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE TRADITIONAL MEDICINE PROJECT

The Japanese Project Consultation Team (hereinafter referred to as “the Team”), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Keiichi Takemoto, was dispatched to the Union of Myanmar from February 5 to February 22, 2008.

During its stay in the Union of Myanmar, the Team had a series of discussions with the Myanmar authorities concerned on the matters related to the activities of Traditional Medicine Project (hereinafter referred to as “the Project”).

As a result of discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Nay Pyi Taw, 24 February 2008

Mr. Keiichi Takemoto
Team Leader
JICA Project Consultation Team,
Japan International Cooperation Agency (JICA)

Dr. Tin Nyunt
Director General
Department of Traditional Medicine
Ministry of Health
The Union of Myanmar

I . Background of Project

The two-year and three-month project started on November, 2006 for the purpose of improving the Traditional Medicine in Myanmar.

In accordance with the Record of Discussions(R/D) signed on September 18, 2006 by both sides, 1 long term expert and 4 short term experts have been dispatched to Myanmar. The Japanese side took necessary measures to provide equipment to facilitate the implementation of the Project.

In the above situation, JICA dispatched the Team to Myanmar in order to review the activities and progress of the Project.

As a result of a series of the discussions with organizations concerned and the meeting with officials of the Ministry of Health, both sides reviewed the activities of the Project.

II . Summary of Discussions

1. Modification of Master Plan

Both sides agreed to modify the Master Plan designated on R/D (ANNEX 2) to as ANNEX 3, as a result of progress of the Project and discussions.

2. Introduction of Verifiable Indicator and Means of Verification of Outputs

Both sides agreed to set verifiable indicators and means of verification of project outputs as ANNEX4, in order to share a method of terminal evaluation planed in Japanese fiscal year 2008.

3. Modification of Plan of Operation (PO)

Both sides agreed to modify the PO according to the environment and the progress of the Project as ANNEX5. The changed points are as below;

(1) Insertion of Verifiable Indicator and Means of Verification of Outputs

The introduced Verifiable Indicator and Means of Verification of Outputs are inserted into the PO.

(2) Times and Periods of Training are deleted

As a result of discussion as 4(1), the times and periods of trainings are tentatively deleted.



4. Other Points Discussed

Both sides discussed and agreed on the following matters.

(1) Designing of Training for Traditional Medicine Practitioners (TMPs)

Both sides discussed as below. As a result of the discussions, the training program will be embodied by the next expert, "training needs assessment". The method of training needs assessment should be implemented mainly by interview to TMPs in Mandalay. The information which should be collected is as ANNEX 6.

1) Concept of Training for TMPs

- i. Effective usage of the Traditional Medicine Handbook published by the Project
- ii. Improvement of communication between TMPs and patients

2) Venue of Training

Both sides agreed that the venue of training will be Mandalay where Traditional Medicine University and a number of TMPs are actively working.

3) Period, Times and Numbers of Participants

The Team proposed to conduct a training for 20-40 practitioners, who have participated in the previous seminars in the Project, for 2 days. Department of Traditional Medicine, as a counterproposal, proposed trainings to be conducted for 5 times by the Japanese experts and resource persons of Myanmar. Though the Team appreciated the counterproposal that invites trainers from Myanmar side, the period, times and numbers of participants need to be discussed by the training needs assessment expert.

(2) Result and progress of supplementary survey

Though the supplementary survey was scheduled to be completed by the end of January 2008, at the present moment, a few more days are needed for completion. Department of Traditional Medicine will send the collected material to JICA Myanmar office soon after the completion. Thereafter, JICA can proceed to the data input and analysis in order to utilize the materials as a data for training and handbook.

(3) Progress of Handbook writing

The responsible persons were nominated at the meeting by Department of Traditional Medicine after JCC in November 2007. At this time of consultation meeting in Nay Pyi Taw, though the drafted manuscript was not presented, because of the absence of authors, the image of cover sheet, prefaces and lay-out of the handbook were presented.

The progress of Handbook writing needs to be continuously monitored by both sides.

ANNEX1 List of Attendants of the meeting on February 6th and 7th, 2008

(Myanmar side)

1. Dr. Tin Nyunt, Director General, Department of Traditional Medicine (DTM)
2. U Aung Myat Kyaw, Deputy Director General, DTM
3. U Win Myint, Director / Research and Development, DTM
4. Dr. Theim Kyaw, Medical Superintendent, Traditional Medical Hospital

(Japanese side)

1. Dr. Shigetoshi Kadota, JICA project consultation team
2. Mr. Shintaro Takano, JICA project consultation team
3. Mr. Kyaw Nyein, Interpreter



1. OBJECTIVES OF THE PROJECT

(1) Overall Goal

The quality of service provided by traditional medicine practitioners is improved.

(2) Project Purpose

The capacity of traditional medicine practitioners is developed.

2. OUTPUTS OF THE PROJECT

(1) Measures to enhance the capacity of traditional medicine practitioners are recommended to the Department of Traditional Medicine, following analysis of the current situation of traditional medicine practitioners in the selected areas.

(2) The basic knowledge of herbal medicine of traditional medicine practitioners is developed.

3. ACTIVITIES OF THE PROJECT

1-1 Select the target area.

1-2 Collect the information about the common disease, prescription by traditional medicine practitioners and the usage of herbal medicine among rural population.

1-3 Analyze the data and information collected, and assess the needs of training for traditional medicine practitioners.

1-4 Create a handbook on the basic herbal medicine for traditional medicine practitioners.

1-5 Make a report on the improvement of pre-service and in-service training for traditional medicine practitioners.

1-6 Hold a seminar to share the result of the report.

2-1 Conduct training course(s) for traditional medicine practitioners on the basic knowledge of herbal medicine.



1. OBJECTIVES OF THE PROJECT

(1) Overall Goal

The quality of service provided by Traditional Medicine Practitioners (TMPs) is improved.

(2) Project Purpose

The capacity of TMPs is developed.

2. OUTPUTS OF THE PROJECT

- (1) Current situation of TMPs is understood based on the field study and suggestions are made for its improvement.
- (2) TMP's basic knowledge on traditional medicines and operational skills of basic equipment are improved.

3. ACTIVITIES OF THE PROJECT

- 1-1 Select Study Areas.
- 1-2 Collect information on the work of TMPs and utilization of herbal as well as traditional medicines by the local populations.
- 1-3 Analyze popular diseases, treatment methods, and needs of herbal as well as traditional medicines.
- 1-4 Compile Myanmar Traditional Medicine handbook.
- 1-5 Feedback recommendations to the Department of Traditional Medicine by means of seminars and alike on training of TMPs before and after graduation.
- 1-6 Share the recommendations of the study with TMPs through seminars.
- 2-1 Conduct training of TMPs on basic knowledge of herbal as well as traditional medicines.



ANNEX 4 Verifiable Indicator and Means of Verification

m4/Ann. 073

1. Overall Goal

The quality of service provided by TMPs is improved.

Verifiable Indicator : Degree of Satisfaction of patients

TMP's knowledge and skill of traditional medicine

Means of Verification : Interview and questionnaire to patients

Pre and post examination on the training

2. Project Purpose

The capacity of TMPs is developed.

Verifiable Indicator : TMP's knowledge and skill of traditional medicine

Means of Verification : Pre and post examination on the training

3. Outputs of the Project

3.1. Current situation of TMPs is understood based on the field study and suggestions are made for its improvement.

Verifiable Indicator : A seminar for Department of Traditional Medicine, University of Traditional Medicine and TMPs is held to share the current situation of TMPs

Means of Verification : Report of seminar

3.2 TMP's basic knowledge on traditional medicines and operational skills of basic equipment are improved.

Verifiable Indicator : Handbooks are compiled (1000 copies in Myanmar Language and 500 copies in English)

TMP's knowledge and skill of Traditional Medicine

Means of Verification : Number of Handbooks

Score of pre and post examination on the training for TMPs

5

Plan of Operations

Activity	2006			2007			2008			Party in Charge	Experts	Equipment	Local cost (1000 Yen)	
	11	12	1	2	3	4	5	6	7					8
Expert: Human Resources Development/ Coordination														
Expert: Study Analysis (Study Methods)														
Expert: Study Analysis (Disease Surveillance I)														
Expert: Study Analysis (Demand Analysis)														
Expert: Study Analysis (Treatment Analysis I)														
Expert: Study Analysis (Training Needs Analysis)														
Expert: Study Analysis (Handbook Design)														
Expert: Human Resource Development (Training Plan)														
Expert: Study Analysis (Traditional Medicine Practitioners Training)														
Expert: Study Analysis (Disease Surveillance II)														
Expert: Study Analysis (Treatment Analysis II)														
Joint Coordinating Committee														
Terminal Evaluation														

Output 1: Current situation of Traditional Medicine Practitioners (TMPs) is understood based on the field study and suggestions are made for its improvement. Verifiable Indicator : Seminar is held to share the current situation of TMPs
 Means of Verification : Result report of seminar

Activity	2006	2007	2008	Party in Charge	Experts	Equipment	Local cost (1000 Yen)
1.1 Select Study Areas				Research Development Division, DTM	Yokomori Kazuo, Saiki Katsuhiko, Kurovaki Tezuka		
1.2 Collect information on the work of TMPs and utilization of herbal as well as traditional medicines by the local populations				Research Development Division, DTM			
1.3 Analyze popular diseases, treatment methods, and needs of herbal as well as traditional medicines.				Research Development Division, DTM			
1.4 Compile Myanmar Traditional Medicine handbook				Research Development Division, DTM			
Feedback recommendations to the Dept of Traditional Medicine by means of seminars and alike on training of TMPs before and after graduation				Research Development Division, DTM			
1.6 Share the recommendations of the study with TMPs through seminars				Research Development Division, DTM			

Output 2: TMPs' basic knowledge on traditional medicines and operational skills of basic equipment are improved. Verifiable Indicator : Handbook is compiled, Seminar and Training are held for TMPs
 Means of Verification : Handbook, Score of pre and post examination

Activity	2006	2007	2008	Party in Charge	Experts	Equipment	Local cost (1000 Yen)
2.1 Conduct training of TMPs on basic knowledge of herbal as well as traditional medicine				Traditional Medicine Hospital, Division of Traditional Medicine, University of Traditional			
2.2 Review contents of the training							
2.3 Conduct Training of Trainers							
2.4 Evaluation							

mylhm-073

Information for Training Program Making

Contents of Information		Source of Information	Type of Information	Way of Acquisition	Purpose of acquisition
Pre-service education	History, Background, Outline of UTM		Management/Policy	PPT of UTM	To understand the base of education for TMP and to reflect them to the training by JICA project
	Purposes of UTM		Management/Policy	PPT of UTM	
	Organization chart		University of TM	PPT of UTM	
	Curriculum		University of TM	PPT of UTM	
	Number of Student	DTM	University of TM	Interview	
	Qualification for entrance		University of TM	PPT of UTM	
	Teacher and Administrative staff		University of TM	PPT of UTM	
	Period of education		University of TM	PPT of UTM	
	Licence of TMP	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	
	Orientation of Student as future TMP	DTM, UTM	Student	Questionnaire, Interview	
	Job Opportunity	DTM, UTM	University of TM	Questionnaire, Interview	
	Opportunity of Inservice Training	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	
	Annual Schedule	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	
In-service training	Division in charge	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	To understand the previous and present in-service trainings and to find the training topics that should be given by JICA project training.
	Main topics	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	To find resource persons to be trainer
	Resource organization and person as trainer	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	To find resource persons to be trainer
	Expectation for the next training by JICA	DTM, UTM, TMP	TMP	Questionnaire, Interview	To understand the previous and present in-service trainings and to find the training topics that should be given by JICA project training.
	Role of Western medicine and Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	TMP	Questionnaire, Interview	To understand the collaboration with western medicine
	Opportunity to learn Western Medicine	DTM, UTM, TMP	TMP	Questionnaire, Interview	To understand the collaboration with western medicine
	Strength of Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	others	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project
	Weakness of Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	others	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project
	Future Vision for Traditional Medicine	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project
	Obstruction for executing Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	TMP	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project
Western medicine	Role of Western medicine and Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	TMP	Questionnaire, Interview	To understand the collaboration with western medicine
	Opportunity to learn Western Medicine	DTM, UTM, TMP	TMP	Questionnaire, Interview	To understand the collaboration with western medicine
others	Strength of Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	others	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project
	Weakness of Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	others	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project
	Future Vision for Traditional Medicine	DTM, UTM	Management/Policy	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project
	Obstruction for executing Traditional Medicine	DTM, UTM, TMP	TMP	Questionnaire, Interview	To find a Training Topic by JICA Project

my/hm-073

